教育情報

桂川っ子

VOL.11

イベントの中での子どもたち

桂川町教育委員会
教育長　佐谷 千香子

「今の子どもはつかみどころがない。一つのことに真剣になれない。」という現代っ子感を時々聞きます。が、そんな事はありません。

今も昔も子どもは同じです。

そこで、イベントの中で私が出会った、桂川町の素晴らしい子どもたちのことを少し紹介したいと思います。

その一～土師の獅子舞の子どもたち

９月23日、老松神社の秋祭りで獅子舞を参観しました。中学生が獅子頭（ししのあたま）を持ち、２人で舞っていました。下はコンクリート。足袋（たび）裸足です。足の裏は摩擦熱ですごかったでしょう。まだまだ暑い盛りです。獅子頭をとった顔は二人とも汗びっしょりで、真っ赤でした。獅子の頭を持っていた生徒も、後ろ側に入っていた生徒もニッコリ。その笑顔は美しいものでした。また、太鼓打ちでは、小さな子どもたちも何回も何回も太鼓に合わせて踊っていました。これらを、地域の若い人たちが一生懸命に世話してありました。

生徒たちは先輩・後輩の関係や礼儀、マナーも学びます。指導下さる方たちに感謝申し上げます。

その二～「古代の謎フェスティバル」での両小学校の参加

10月18日の前夜祭では、桂川小学校の６年生が「けいせんソーラン節」を、東小学校は、３・４年生が「花笠音頭」の踊りを見事に披露しました。何人もの先生方の引率でした。集団の美しさは夜の芝生に映えました。しかし、集団も一人ひとりがきちんとしないと美しさは輝きません。

その三～「ときめきウォークイン桂川」での完歩

10月12日、20㎞という最長のコースを中学校の陸上部の生徒が、大人に交じって二人の先生と共に見事に完歩しました。何と無く過ごしても一日は一日。完歩することで体力や精神力・根性を養います。そのほか、中学校のブラスバンドの演奏やいろんな場所での王塚太鼓での活躍など、地域のいろんな所で頑張っています。今、話題になっている学力も体力・精神力・根性が土台になると思います。

子どもたちはチャンスを得れば真剣に取り組みます。子どもたちが頑張ればほめてください。

未来を担う、心豊かでたくましい子どもたちを

―桂川中学校校長　山本 和生―

一月十二日は成人式でしたが、中学を卒業してわずか五年の歳月の中で、新成人一人ひとりがそれぞれの人生を歩んでいました。中学三年生も卒業まで二カ月を切り、それぞれの進路実現のために、義務教育９カ年の最後の日々を送っています。

さて、日本の教育はこの十年の間に大きく変わってきています。その中で、変化の激しい社会に対応するために、教育の質を高め、社会全体で子どもたちを育てていく仕組みが求められています。

昨年、文部科学省により「教育振興基本計画」が策定され、福岡県では「教育力向上県民運動」が始まりました。いずれも、学校、家庭、地域の連携・協力が強調されています。桂川町でも「生き生き桂川っ子」育成事業により、学校等だけに任せてきた教育、子育てを、地域社会全体で行っていこうとしています。「地域の子どもは地域で育てる」これこそがこの事業の目的であり、この「教育情報・桂川っ子」を通して情報を発信しています。

学校には今も昔も多くのことが求められてきましたが、学校だけでは対応が難しくなったことも多くあります。今こそ、学校、家庭、地域が連携して、地域全体で子どもを育てるために、温かい見守りや支援、「ダメなものはダメ」という毅然とした地域の大人の対応が必要となっています。あらゆる角度からの子どもたちへのアプローチが、子どもたちを変えることにつながると考えています。

今、学校における最も重要な課題は、学力の向上です。学校は、教育の質を高めることが求められています。世界的に厳しい経済情勢の時期だからこそ、学校、地域の役割を確認したいと思います。

▲ 登校する子どもたちの見守りと「おはよう！」の声掛けを行う地域活動風景のひとコマ（土居お宮前交差点にて撮影）